



エアタービンの発熱による頬粘膜の熱傷

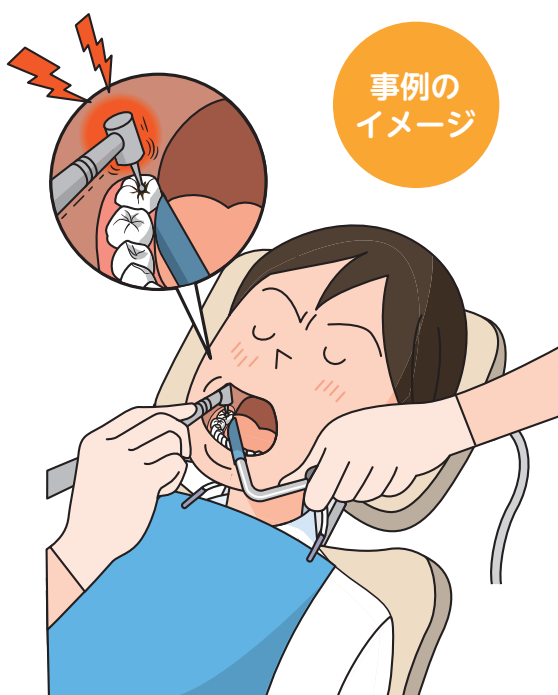
切削時にエアタービンが発熱し、
頬粘膜に熱傷をきたした事例が報告されています。

事例の内容

歯科医師は、右下7番の齲蝕治療のため、エアタービンで切削をしていた。異音と振動の大きさを感じていたが、確認せず、そのまま切削を続けていた。その後、頬粘膜に熱傷をきたしていることに気づき、エアタービンが発熱していたことがわかった。

事例の背景

エアタービンから異音が出ており、普段より振動が大きかったことから、回転不良が起きていた可能性がある。



取り組みのポイント

～事例を報告した歯科診療所が考えた改善策を踏まえて～



- エアタービンは微細な部品で構成され、高い空気圧で動かしているため、故障時に発熱しやすいことを認識する。

エアタービンの取り扱いのポイント

- 添付文書の「保守・点検に係る事項」にある点検項目に沿って、使用前に毎回点検を実施する。
- 使用直前に口腔外で回転させ、異常な振動や音、発熱などがなければ確認する。使用中に異常を感じた場合は、直ちに使用を中止し、業者などに連絡する。予備のタービンを準備しておき、使用する。
- 回転中にバーを着脱するボタンが押されると発熱の原因になる製品もあるため、切削中に不用意にヘッド部を患者の頬粘膜に押し当てたり、患者の頬粘膜を伸展させたりしない。
- エアタービンの回転不良により発熱する可能性があるため、使用後は、洗浄、滅菌、注油を行う。
- 添付文書の「保守・点検に係る事項」に沿って自院で保守点検計画を策定し、計画に基づいて保守点検に出す。